

2012年2月15日(水曜日)

# 幸福度日本一の「ふるさと福井」にさらなる誇りと豊かさを

今の福井県が設置されたのは、明治14(1881)年2月7日。県では、この日を条例で「ふるさとの日」として定め、皆さんにふるさとに対する理解や関心を高めてもらおうと、毎年、記念行事を開催しています。今年もさまざまな催しで、ふるさとの誕生日を祝いました。

また、優れた子育て、雇用環境などが高く評価され、「幸福度日本一」に選ばれるなど、私たちのふるさとは誇るべき魅力がいっぱい。こうした魅力をさらに高めるとともに、県内外で暮らす福井出身者や県外で生まれ育った人たちに実感してもらい、福井での就職、定住につなげてもらおうと、県ではさまざまな活動を進めています。



**長男**  
(小学6年生)

この前のニュースで、2月7日に「ふるさとの日」を記念する行事があったって流れていたよ。福井県にとって、どんな意味を持つ日なの。



**父**

現在の「福井県が生まれた日」だよ。古くから福井の地には「越前」と「若狭」という2つの国があったんだけど、時代の流れの中で分離や統合を繰り返して、131年前の明治14年2月7日に、今の福井県ができたんだよ。



**おじいちゃん**

たしか30年前の昭和57(1982)年に、置県100年を記念して「ふるさとの日」ができたんじゃないか。今の県庁もその時に建てられたんじゃない。懐かしい思い出じゃのお。



**母**

そんな福井県が「幸福度日本一」に選ばれたのよね。私たち一人ひとりが、福井をより良い場所にしようと頑張ってきた成果でしょうし、ふるさとへの誇りもさらに高まるわよね。



**父**

県外で暮らす福井出身の人たちにも、生まれ育ったふるさとに誇りや愛情を抱く人は多いだろうね。ぜひ、福井県の呼びかけで制度化された「ふるさと納税」で貢献してほしいね。



**長女**  
(高校1年生)

ふるさとに対する思いを形にする寄付金のことね。うちの高校の部活動で使う備品は、この寄付金で購入してもらったと聞いたわ。全国大会への出場を目指して頑張っているクラスメイトが、とても励みになるって喜んでるよ。



**おじいちゃん**

福井にUターンする学生を増やす活動にも、県は力を入れていると聞いたぞ。



**父**

県外に進学する学生のうち、就職などで福井に戻るの、4人に1人程度と言われているんだ。そこで県では、県内外で学生や保護者向けの就職セミナーを開いたりして、学生のUターン就職につなげているんだよ。



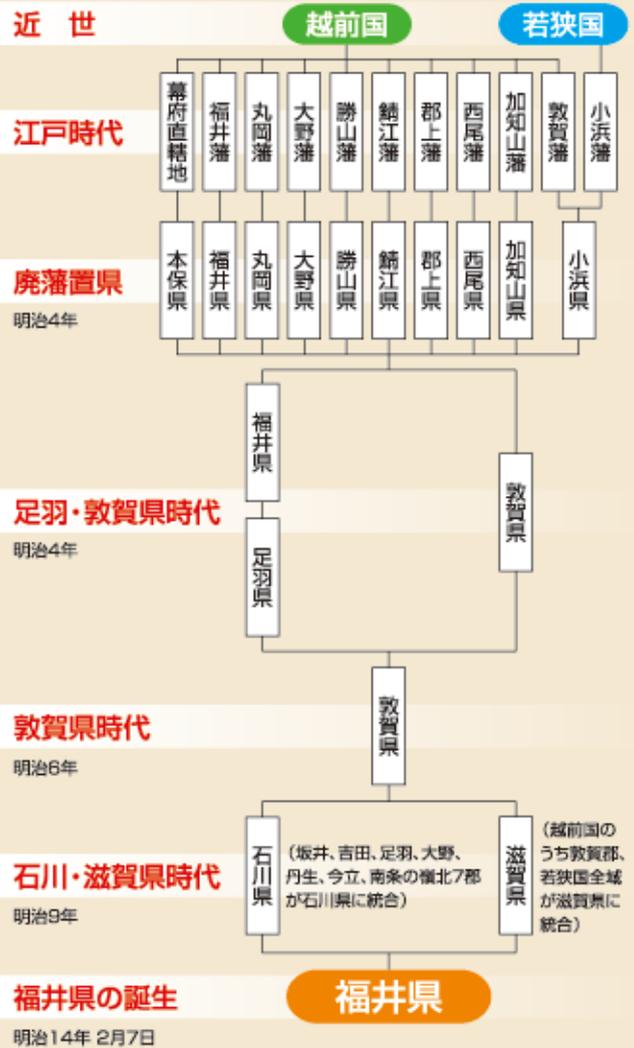
**母**

最近では、県外で生活する社会人にも、福井に魅力を感じて移住を考える人がいるそうよ。こうした人がさらに増えるように、今住んでいる私たちが、これからももっともっと福井の良さを伸ばしていかなきゃいけないわね。



そのとおりだね！

## 今の福井県ができるまで



# 福井県の「131歳」を盛大に祝う ～「第30回ふるさとの日記念行事」を開催～

2月7日のふるさとの日に合わせ、県では30回目となる「ふるさとの日記念行事」を開催。  
記念式典やさまざまな催しで131歳の誕生日を祝いました。

## 県政功労者を表彰

毎年、ふるさとの日に合わせ、県では地方自治の振興や社会福祉、産業、教育、文化などの発展に貢献された方々を「県政功労者」として表彰しています。

県庁で開催した今年の表彰式では、著しい功績を残された47名、1団体の方々を表彰しました。



## 県科学学術大賞を贈呈

アオッサの県民ホールで開催した記念式典では、県内での科学技術の開発や学術研究を通じて本県の発展に貢献した研究者などを独自に表彰する「県科学学術大賞」の贈呈式を開催。優れた業績を挙げられた次の方々を表彰しました。



### 受賞者と業績の概要

信越化学工業株式会社 主任研究員 廣田 晃一(ひろた こういち)さん	高耐熱性磁石の生産に関する技術開発
福井大学医学部 教授 村松 郁延(むらまつ いくのぶ)さん	尿道を制御する細胞内分子の発見と新薬開発

## 福井ゆかりの名奇術師の技を披露

記念式典に先立ち、福井市生まれで明治時代を代表する奇術師・松旭齋天一(しょうきょくさいてんいち)の没後100年を記念して、日本奇術協会副会長の藤山新太郎さんが、天一の功績などについて講演。天一が得意とした日本古来の手妻(手品)も披露し、来場した約450名を魅了しました。



## 福井の「幸福」について講演

式典後には、関西大学教授の草郷孝好(くさごうたかよし)さんが、「幸福度日本一の福井県とブータンのGNH(国民総幸福)」をテーマに講演。来場者は、福井の「幸せ」を支える背景などについて、一緒に考えを深めました。



# ふるさとへの思いを形や行動で実現する 「ふるさと納税」・「ふるさと帰住」

## 福井生まれの「ふるさと納税」で貢献

本県の提唱により制度化され、全国に定着した「ふるさと納税」。ふるさとに対する思いを

寄付金の形で実現でき、昨年からは、個人住民税の寄付控除の対象額が2千円以上に引き下げられるなど、さらに利用しやすくなりました。

例年、県の共同受入窓口で寄せられる寄付金は3千万円以上で、全国トップクラス。このうち、県分として寄せられた寄付金を活用し、平成23年度は福井の未来を担う子どもや若者を応援する活動を行い、さらに魅力あるふるさとづくりにつなげていきます。



寄付金で購入した弦楽器の弾き方をプロ奏者から学ぶ活動も展開(福井市社北小学校)

平成23年度に寄付金を活用した事業	寄付金活用額(千円)
(1)子どもが親しみやすい本格的なコンサートの開催や弦楽器の購入	6,905
(2)全国大会などでの活躍を目指し頑張る高校生の文化系部活動の応援	5,000
(3)若者のチャレンジ活動の支援	3,000
(4)「福井ふるさと百景」の県内外への情報発信	2,984

ふるさと納税は、

- 県、市町に同時に寄付できます。
- お近くのゆうちょ銀行で、手軽に手続きできます。
- インターネット(ふるさと福井応援サイト)でも簡単に手続きできます。

## 学生のUターン就職を応援

県では、県外の大学などに進学した学生のUターン就職を促進するため、企業と連携して就職セミナーなどを県内外で開催。また、県内で合同企業説明会を開催する際には、都市圏から「無料Uターンバス」を運行しています。

特に今年度は、学生の就職活動の開始時期が10月から12月に変更され、Uターン就職や県内企業に対する学生の関心、理解の低下が懸念されることから、就職支援策を充実強化。11月から2月にかけて、都市圏で合同企業説明会などを集中的に開いているほか、新たに、本県出身の学生が多い金沢でも開催しました。

このほか、県外の大学に通う学生の保護者や大学1、2年生を対象とした企業訪問ツアーなど、ふくいの優れた雇用・生活環境、ものづくり企業の高い技術をアピールし、Uターン就職を促進しています。



学生のUターン就職を応援するため、県内外で合同企業説明会などを開催

## 「新ふくい人」の招致を

県外に住む社会人が、福井に魅力を感じて移り住む「新ふくい人」を増やす活動にも、県では力を入れています。

インターネット上に「福井県定住促進総合サイト」を設け、福井の暮らしや仕事、住宅などに関する幅広い情報を提供しているほか、東京、大阪、名古屋に相談窓口「ふるさと帰住センター」を設置。今年度から毎月第3土曜日の定期相談会を新たにスタートさせるなど、Uターン就職のサポート体制や情報発信を強化しました。

また、県外女性が参加する婚活イベントなどを通して定住を促進しているほか、県外のUターン希望者が、福井ならではの地域資源を活かしてビジネスを立ち上げる「ふるさと起業」を支援。加えて、地域と密接な関係を持つ団体と連携した定住後のフォローアップや、新たな空き家の発掘を行っています。

## 被災者の定住を支援

東日本大震災で被災された方々の県内での定住を支援するため、県では住宅や就職をはじめ生活全般に関する相談窓口を設置。園児や児童・生徒に対しては、給食費の補助や奨学金の貸付けなどの就学支援のほか、心のケアを実施しています。

また、今月下旬には、福井市殿下地区で、首都圏在住の被災者を対象に、定住に向けた下見ツアーを開催。県では往復バスを運行するなど、被災者と地区の活動を応援します。



夏休みにショートステイで殿下地区を訪れた被災地の子どもたちを西川知事が激励

ふるさと納税、ふるさと帰住に関する情報をホームページで提供しています

[ふるさと福井応援サイト\(ふるさと納税\)](#)

[福井県定住促進総合サイト\(ふるさと帰住\)](#)

[ふくいUターン就職ネット\(Uターン就職\)](#)

 **BACK**